

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

にいさん』にも登場します)。この物語が記す25～30スタディオンのという距離ですが、1スタディオンは約185mですので、約4.6km～5.5kmです。ガリラヤ湖は東西の幅が約13km、南北の長さが25.9kmですから、イエスの弟子のうち4人が漁師だったとはいえ、湖岸から離れて恐ろしかった様子が伝わってきます。しかも、夕方に湖岸を発ち、嵐で月の光もなかったわけですので、真っ暗闇でした。その状況で波が大きくうねる湖上で遠くから何かが近づいてきたのですから、その恐怖は相当のものです。近づいてきたのがイエスと分かり、「わたしだよ、怖がらなくていいよ」と語りかけられたときの安堵感はいかばかりでしょう。最後の21節はこの奇跡の不思議さを伝えています。弟子がイエスを船の中に迎えようすると、嵐が止んだのではなく、舟は目的地にすでに着いていたというのです。狐につままれてポカンとなってしまうような、「世にも奇妙な物語」みたいな結末です。この逸話が奇跡物語として好まれて伝えられてきた所以です。

この物語は元来単純な奇跡物語でしたが、徐々に比喩的に理解され、教訓的な物語として流布したと考えられます。すなわち、弟子は信者を、イエスはメシアのイエスを、舟は教会を、湖はこの世を、そして強い風（嵐）は教会がこの世で遭遇する「試練」を比喩的に表していると理解されてきたということです。教会は嵐のような試練に遭おうとも、イエスに対する「信」（信仰／信頼）を忘れてはいけないということを、そしてイエスが一緒にいてくれるのなら、そこはすでに目的地だと伝えているということです。しかし、よくよく考えてみると、物語では弟子たちはそもそもイエスがいらないまま出発していますので、「最も大切なことを忘れていませんか？」と問いかけたくなります。同様の問いかけは本学にも不可欠であり、大学礼拝を通じて「最も大切なことを忘れていませんか？」と自問しつつ、その大切なものが何なのかを繰り返し確認することが必要だと言えます。

- 【聖歌隊と一緒に歌いましょう】
大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。
- 【次回の大学礼拝】2025年11月25日（火）10時40分
聖書 マラキ書 3 章 23-24 節、ルカによる福音書 22 章 32 節
奨励 「エリヤの椅子」横川容子（国際交流課課長、元附属高校聖書科教諭）
- 【前回の大学礼拝】2025 年 11 月 11 日（火）
学生：25 名 教職員ほか：8 名 合計：33 名

【大学礼拝週報】2025 年度 第 24 号（後学期第 9 号）
2025 年 11 月 18 日（火）午前 10 時 40 分
酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼 拝 順 序》

司 式 小林昭博（宗 教 主 任）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教授）

前 奏 主なるキリストよ、我らにみ心をかけたまえ（J.C.バッハ作曲）
讃 美 歌 讃美歌 126 番（風はげしく波立ち）
聖 書 ヨハネによる福音書 6 章 16-21 節
さ ん び 酪農学園大学聖歌隊
奨 励 「最も大切なことを忘れていませんか？」
祈 り 小林昭博（宗教主任）
讃 美 歌 讃美歌第二編 171 番（大波のように）
報 告
後 奏 おお神よ、や汝いと高き恵みの神よ（リューデケ作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6 章 16-21 節
16 夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。 17 そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。 18 強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。 19 二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、彼らは恐れた。 20 イエスは言われた。「わたしだ。恐れることはない。」 21 そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。

【奨励】「最も大切なことを忘れていませんか？」
本日の聖書はイエスが湖の上を歩行するという奇跡物語です（『聖☆お